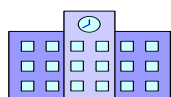


学校だより 第5号 令和3年8月26日(木)

学校教育目標：自ら学び、心豊かでたくましい児童の育成



きざき



TEL048-831-2281

URL <http://kizaki-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail kizaki-e@saitama-city.ed.jp

笑顔いっぱい 夢いっぱい

力いっぱい



さいたま市立木崎小学校

五輪アスリートの活躍から

～ チャレンジの2学期に ～

校長 逸見 修治

処暑も過ぎ朝夕の風に秋の香りを感じますがまだまだ残暑が心配される中、子どもたちの元気な声と明るい笑顔で一気に学校らしさを取り戻し、木崎小学校の2学期がスタートしました。

さて、7月23日から8月8日までの17日間にわたり、第32回オリンピック競技大会「東京2020オリンピック」が開催されました。東京都などに緊急事態宣言が発令される中、開催自体を心配する声も少なくありませんでした。殆どの競技会場が感染防止のための無観客で行われました。205か国・地域と難民選手団から約11,000人の選手が参加し、史上最多の33競技339種目で力と技を競いました。日本選手は過去最多の583人が参加し、ご存じのとおり獲得した金メダル27個は過去最多、銀14個、銅17個を加えた総数58個のメダル獲得も最多記録となりました。

日本のお家芸である柔道、レスリングでのメダル量産、フェンシングやバスケットボール、卓球、男子体操などの団体競技での躍進、スケートボードやサーフィン、スポーツクライミングなどの新競技での活躍などなど。外出自粛要請の中、日本選手団の活躍の報に毎日ワクワクさせられました。特にこの大会では、13歳で日本選手最年少の金メダル、最年少銀メダリストが12歳という十代の活躍が話題となりました。アスリートたちの競技後のインタビューでは、「オリンピックに参加できてよかった。」「開催していただいて心から感謝します。」という声がたくさんありました。緊急事態宣言下での前例のない五輪開催、世論の懸念、空前の感染症対策、誰もいない観客席の異質さ…、コロナ禍で様変わりしましたが、そんな中でも変わらないものがありました。それは「すべてをかける選手たちの姿」であります。未来の世代に生の五輪体験が残せなかったことが課題だという声もありますが、画面や紙面から伝わる選手一人ひとりの声、懸命に競技したアスリートの姿や心意気には、子どもたちの未来への羅針盤となるような大切なメッセージが込められていました。また、新型コロナウイルス感染防止対策で心身ともに疲弊している中、困難に負けずに立ち向かっていくための勇気とエネルギーが湧いてきました。

オリンピックの活躍を刺激にして、2学期に計画している様々な活動に期待を寄せ、自分なりのめあてをもち積極的にチャレンジしてほしいと願っています。しかし、長かった夏休みの終わりにあたり、体の重さや心の重さを感じている子どもも少なくないと思われます。大人でも長期の休暇後の出勤には身も心も重くなるものです。各ご家庭におかれましては、子どもの思いに共感しながらも、2学期に待っている様々な楽しい活動に思いを寄せることで学校生活への期待が湧いてくるような励ましや声掛け等、ご支援よろしく願いいたします。

学校ならではの集団活動をとおして、学級や学年の絆を深め、豊かな心とよりよい人間関係を育んでいきます。2学期の学校生活が充実したものにできるよう、保護者・地域の皆様のご協力を得ながら、子どもたちのよさや可能性を更に伸ばしていきたいと考えております。